

令和8年度

学習シラバス

第1学年

(年間の学習内容とねらい)



鴻巣市立鴻巣南中学校

第1学年 「国語」

1 学習の目標

- 自分の考えを、目的や場面に応じて話したり聞いたりできるようにしよう。
- 自分の考えを、しっかり表現できるようにしよう。
- 様々な文章を読んで、内容をしっかりつかめるようにしよう。

【知識・技能】

- 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。

【思考・判断・表現】

- 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

2 評価の観点・方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の事項について、他の学習や生活の場面でも活用できる態度に概念等を理解したり、技能を取得したりしている。 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (漢字、語彙、文等のきまり、表現技法等) (2)情報の扱い方に関する事項 (情報と情報との関係、情報の整理等) (3)我が国の言語文化に関する事項 (伝統的な言語文化、書写等)	各単元の中で設定されている「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を通して、既習の知識や技能等を適切に活用したり、複数の知識や技能等を結び付けたりしながら、学習課題や自分なりの問いに対して、考えたり、判断したり、表現したりしている。	各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、最後まで粘り強く学習しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・その他の2観点の学習状況

3 学習方法についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を捉え、自分なりの問いをもち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に入る前には、教材文をくり返し読み、新しい漢字や分からない言葉を調べましょう。 ・教科書等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・自分が興味をもった本を中心に計画的に本を読むようにしましょう。

4 学習計画 (A:知識・技能 B:思考・判断・表現)

	各単元と主な内容	学習のねらい
一 学 期	<p>朝のリレー(A) 声を届ける 野原はうたう 書き留める/言葉を調べる 続けてみよう</p> <p>1 学びをひらく はじまりの風(B) 情報を聞き取り、要点を捉える(A) 言葉1 音声の仕組みや働き 語の構成を工夫しよう(B) 漢字1 漢字の組み立てと部首(A)</p> <p>2 新しい視点で ダイコンは大きな根(B) ちょっと立ち止まって(B) 思考のレッスン 比較・分類 情報を整理して説明しよう(A) 言葉2 指示する語句と接続する語句</p> <p>書写 硬筆展覧会にむけて(A) 硬筆姿勢・楷書</p> <p>3 言葉に立ち止まる 空の詩 三編(B) 言葉3 さまざまな表現技法(A) 比喩で広がる言葉の世界(B) 文法1 言葉の単位(A) 情報×SDGs 本の中の中学生 読書を楽しむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特徴について自分の考えをもつ。 ・本やインターネットなどから必要な情報を集めるための方法を身につける。 ・日常生活の中からテーマを決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる。 ・登場人物の心情を表す表現に着目して作品の理解を深める。 ・登場人物の行動から、その気持ちの変化を捉える。 ・聞き手が知りたい情報を考えて、日常生活の中から交流を通して話題を決める。 ・漢字の組み立てと部首を理解する。 ・文章の中で使われている言葉の意味や内容を捉える。 ・段落の役割や文章構成を考える。 ・語句の意味を的確に捉え、自分なりの考えをもつ。 ・観点を決めて多くの言葉を集め、日常生活を題材とした推薦文を書く。 ・情報を読み取り、適切な引用の仕方を理解する。 ・指示する語句と接続する語句の働きについて理解する。 ・硬筆展覧会にむけての作品作りに取り組む。 ・詩に描かれた情景や表現の効果を考える。 ・比喩について理解し、言葉について考えを深めたことをまとめる。 ・本からの情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取る。
二 学 期	<p>4 心の動き 大人になれなかった弟たちに(B) 星の花が降る頃に(B) 項目を立てて書こう(B) 読み手の立場に立つ(B) 言葉4 方言と共通語(A) 聞き上手になろう(B) 漢字2 漢字の音訓(A)</p> <p>5 筋道を立てて 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(B) 思考のレッスン1 意見と根拠 根拠を明確にして書こう(B) 文法2 文の組み立て 大阿蘇</p> <p>6 いにしへの心にふれる 古典の世界 音読を楽しむ/いるは歌 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から 今に生きる言葉(A)</p> <p>7 価値を見いだす 「不便」の価値を見つめ直す(B) 思考のレッスン2 原因と結果 話題や展開を捉えて話し合おう(B) 読書案内(B)</p> <p>書写 書きぞめ展覧会にむけて(A) 楷書と仮名の調和・行書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・描写に着目し、登場人物の心情を捉える。 ・文脈の中の語句の意味を捉え、情景を想像して詠む。 ・登場人物の行動や情景描写などから作者の思いを捉える。 ・表現の特徴や、時代の描かれ方などに着目し、自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考える。 ・共通語と方言の果たす役割について理解する。 ・漢字の音と訓について理解する。 ・記録の文章の構成に興味をもち、図表の役割に着目して、事実と筆者の考えを読み分ける。 ・筆者の論と展開の特徴を理解し、説得力のある文章を書くために使ってみよう工夫をあげる。 ・文節どうしの関係、連文節、文の組み立てについて理解する。 ・古文の言葉の響きや調子に読み慣れる。 ・古典の世界にふれ、様々な作品があることを知る。 ・古文の表現の特徴を知り、古典の文章に読み慣れる。 ・故事成語の由来と意味を理解し漢文独特の言い回しに読み慣れる。 ・固定観念に捉われずに考えたとき、価値が見いだせるものをあげる。 ・日常生活や他教科の学習で生かすことができる場面を考える。 ・話の筋道を理解するには、原因と結果の関係を捉えることが大切であると理解する。 ・毛筆、文字の大きさ、字形、配列を理解する。 ・書きぞめ展覧会にむけての作品作りに取り組む。
三 学 期	<p>8 自分を見つける 少年の日の思い出(B) 文法3 単語の分類(A) 二十歳になった日 構成や描写を工夫して書こう 漢字3 漢字の成り立ち(A) 一年間の学びを振り返ろう ぼくが ここに(B)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や人物の描写に注意して登場人物の心の移り変わりを捉える。 ・語句の意味を正確に捉え、登場人物のものの見方や考え方に自分の意見を持つ。 ・言葉の並べ方の工夫や比喩について理解する。 ・観点を決めて作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書く。 ・単語の分類について理解する。 ・伝えたいことをフリップにしてまとめ、互いに読み合い、自分の表現に生かす。 ・漢字の成り立ちについて理解する。 ・詩の中の言葉や表現を読み味わい、ものの見方や考え方を広くする。

第1学年 「数学」

1 学習の目標

数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

- 正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができるようにする。
- 文字を用いて関係や法則を式に表現したり、式の意味をよみとったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の計算ができるようにする。
- 方程式について理解し、一元一次方程式を用いることができるようにする。
- 具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係を見だし、表現し考察できるようにする。
- 基本的な図形を見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、対称な図形の性質について考察できるようにする。
- 観察、操作や実験を通して空間図形を考察し、立体の体積や表面積を求めることができるようにする。
- 資料を目的に応じて表やグラフに整理し、散らばりや代表値から資料の傾向を読みとり、説明ができるようにする。

2 評価の観点・方法

【数学への主体的に学習に取り組む態度】

- 様々な事象を数理的にとらえたり、考えたりすることに関心をもち、数学的な見方や考え方の良さを知り、それらを活用して問題を解決しようとする。
- (評価の方法) 課題への取り組み方、振り返りシート、挙手・発言の様子、ノート、提出物など。

【数学的な思考・判断・表現】

- 数学的な見方や考え方を身に付け、事象を見通しをもって論理的に考察することができる。
- (評価の方法) 発言・発表、ノート、ペーパーテスト、レポート、提出物など。

【数学的な知識・技能】

- 式の計算、事象の数量関係や法則、平行線や角の性質について、数的に表現したり処理したりする方法を身に付ける。
 - 数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。
- (評価の方法)
発言・発表、ノート、ペーパーテスト、レポート、提出物など。

3 学習のポイント

- 課題について自分なりの方法で粘り強く取り組み、途中の考え方も大切にノートにまとめよう。
- 先生や発表者の説明をよく聴き、自分の考え方と比較し、よりよい方法を身につけていこう。
- 自分の考えた式や解き方を、人に説明できるように、言語化することを意識しよう。
- 分からないことをそのままにしないで、その時間の中で積極的に先生に質問しよう。
- 出された宿題は必ずやること。また、ワークブック(問題集)は毎時間持ってきて、時間のあるときに各自のペースで進めよう。定期テスト終了後には、テスト範囲までやって提出します。
- テストの準備は、教科書の問題をできるようにすることと、ワークブック(問題集)を自分の力で一題一題ていねいに解き、答え合わせをして力を付けることです。
- 教科書、ノート、三角定規、コンパス(図形分野)など授業道具の忘れ物をしないこと。
- まず自分の力で考えようとする事、そして途中の式や考え方をいつも書くような習慣を付けよう。学習内容を定着させるために繰り返し練習問題に取り組むことが大切です。

4 学習内容と学習のねらい

	学習内容	学習のねらい
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○整数の性質 ○正負の数 ○加法と減法 ○乗法と除法 ○正負の数の利用 ○文字を使った式 ○文字式の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ○自然数をいくつかの数の積で表すことにより、整数の性質を見いだそうとしている。 ○正負の数の必要性と意味を考えようとしている。 ○正負の数の大小関係を考えようとしている。 ○正負の数の加法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の減法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の加法と減法の混じった式の計算の方法を考えようとしている。 ○正負の数の乗法の計算方法を考えようとしている。 ○正負の数の除法の計算方法を考えようとしている。

	<p>○文字式の利用</p>	<p>○正負の数の四則の混じった計算の計算方法を考えようとしている。 ○数の範囲と四則計算の可能性の関係を調べようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○正方形をつなげた棒の本数の求め方を考えようとしている。 ○文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 ○棒の本数を求める式から、その求め方を読み取って説明しようとしている。 ○1次式の計算方法を考えようとしている。 ○文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○等式と不等式の必要性和意味を考えようとしている。 ○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。 ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。</p>
<p>2 学 期</p>	<p>○方程式とその解き方 ○1次方程式の利用</p> <p>○関数と比例・反比例 ○比例の性質の調べ方 ○反比例の性質と調べ方 ○比例と反比例の利用</p> <p>○図形の移動 ○基本の作図 ○おうぎ形</p> <p>○いろいろな立体</p>	<p>○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。 ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。 ○方程式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 ○方程式を活用した問題解決の過程を振り返ってその手順を検討しようとしている。 ○比例式を具体的な問題の解決に利用しようとしている。 ○関数の考えを生活や学習に生かそうとしている。 ○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ○数の範囲を負の数までひろげると比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。 ○変域や比例定数を負の数にひろげて、比例のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。 ○比例について学んだことを生かして、比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。 ○数の範囲を負の数までひろげると反比例の性質やグラフの特徴がどうなるかやその調べ方を考えようとしている。 ○変域や比例定数を負の数にひろげて、反比例のグラフの特徴を捉えようとしている。 ○反比例の値の変化の特徴を、表やグラフを用いて捉えようとしている。 ○反比例について学んだことを生かして、反比例の表、式、グラフを関連づけて捉えようとしている。 ○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○2つの合同な図形の関係移動の見方で捉えようとしている。 ○図形の移動について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○定規とコンパスだけを使って、どんな図形がかけられるかを考えようとしている。 ○基本的な作図の方法を、線対称な図形の性質をもとにして考えようとしている。 ○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○作図について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 ○おうぎ形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○空間図形の性質や関係を捉えることの必要性和意味を考えようとしている。</p>
<p>3 学 期</p>	<p>○立体の見方と調べ方 ○立体の体積と表面積</p> <p>○データの整理と分析 ○データの活用 ○ことからの起こりやすさ</p>	<p>○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えようとしている。 ○空間図形を平面上に表現して、平面上の表現から空間図形の性質を見いだそうとしている。 ○立体図形の体積や表面積の求め方を考えようとしている。 ○既習のデータの整理や分析の方法を、問題解決に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数の必要性和意味を考えようとしている。 ○代表値や範囲の必要性和意味を考えようとしている。 ○ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり、多面的に捉え考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。</p>

第1学年 「社会」

1. 学習の目標

〔地理的分野〕

(1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国土の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、わが国の国土に対する認識を養う。

(2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりでとらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連づけて考察し、地域的特色をとらえるための視点や方法を身に付けさせる。

(3) 大小さまざまな地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察しそれらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること。また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。

(4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

〔歴史的分野〕

(1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

(2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊敬する態度を育てる。

(3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公平に判断するとともに適切に表現する態度を育てる。

2. 評価の観点・方法

① 社会的事象への関心・意欲・態度

「社会的事象に関心をもち、よりよい社会のあり方を考える。」 →

授業参加態度、授業道具や提出物、発表・発言
定期テスト、単元テスト、課題の提出など

② 社会的な思考・判断・表現

「社会的事象から課題を見だし、→
考察し、公正に判断する。」

発表・発言、提出物の内容、課題の内容、
定期テスト、単元テストなど

③ 社会的事象についての知識・技能

「各種の資料を効果的に活用し、→
その成果を適切に表現する。」
「社会的事象について理解し、知
識を身に付けている。」

提出物・レポート・課題の内容やまとめ方、
定期テスト、単元テスト、発表・発言など

3. 学習のポイント

- ・教科書などの基本用語(太文字)は、覚える。
- ・他の人の発言や発表はしっかり聞き、班での話し合いや発表に積極的に取り組む。
- ・ノートには、板書を写して書くだけでなく、要点が分かりやすいように工夫し、自分の気づきや調べたことも記入するようにしておく。
- ・提出物の期限は守る。
- ・調べる時は、できるだけ多く資料を集め、その中から必要な部分だけを利用する。
- ・調べたことをまとめ、レポートにする時には、テーマの設定・利用した資料・分かったこと・自分の考えを必ず入れる。また他の人が見て分かりやすいよう工夫する。
- ・教科書はよく読んで、書いてあることを理解する。
- ・教科書などで出てきた国名や地名は、必ず地図帳で確認する。
- ・教科書などで出てきた人名や文化財は、必ず資料集で確認する。
- ・新聞、テレビ、雑誌などの地理・歴史に関することがらに気をつけ、地理や歴史に関する興味や関心を高める努力をする。
- ・新聞やテレビなどのニュースに気をつけ、社会に関する関心や興味をもつように努力する。
- ・基本用語は、書きながら(漢字のものは、正しく漢字で書ける)覚える。

4. 学習内容と学習のねらい




学期	学習内容	学習のねらい
1 学 期	○地理学習の初めに	○小学校社会科の学習の既得知識を整理する。
	○世界の姿 ○日本の姿 ○人々の生活と環境	○世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や世界地図を活用して、大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係を捉えるための知識と技能を身につける。 ○日本の国土の位置と領域の特色、変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の地域構成の基本的な枠組み(地域区分)を捉える活動に意欲的に取り組み、地図を活用する方法を身につける。 ○人々の生活と環境との関わりや、さまざまな条件の下で多様な生活を営んでいることを理解するとともに、異なる文化を尊重する態度を身につける。
2 学 期	○歴史学習の初めに ○歴史へのとびら ○古代までの日本 ・世界の古代文明と宗教のおこり ・日本列島の誕生と大陸との交流 ・古代国家の歩みと東アジア世界	○小学校の学習との関連を図りながら、中学校の歴史学習の導入として、歴史に対する興味、関心、意欲を高める。 ○時代や年代の読み取り方を理解し、歴史を学習する際の基礎を身に着ける。 ○日本列島において人々の生活が始まり、やがて国家が形成されていった過程のあらましを、東アジアの動きと関連付けて理解する。 ○大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治を展開した古代までの日本の流れを大きく捉える。 ○古代の日本において、国際的な要素を持った文化からやがて文化の国風化が進んでいくことを、代表的な事例を取り上げて理解するとともに、日本の文化財に関心を持つ。
	○世界の諸地域 ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 ・オセアニア州	○世界の諸地域の地域的特色を理解するために、それぞれの地理的事象に関する学習テーマを設定し、意欲的に追究する。 ○世界の諸地域の学習テーマを追究していく過程において、その地域的特色と課題を多面的・多角的に考察し、その成果をさまざまな手法で表現する。 ○世界の諸地域に関する統計資料の分析、雨温図・主題図・写真の読み取りや比較・関連づけなどの地理的技能を育む。 ○世界の諸地域の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などの特色について概観し、地球儀や地図帳などを活用しながら、それぞれの基礎的・基本的な知識を身につける。 ○学習した地理的事象や日常生活、報道などによる話題などの地理的事象に興味・関心を持ち、設定した課題の解決に向けて問題解決的な調査活動や探究的な学習に意欲的に取り組む。 ○世界の人々はそれぞれの地域で、なぜそのような多様な生活を営んでいるのかを考え、世界の地理的認識を深める。
3 学 期	○中世の日本 ・武士の政権の成立 ・ユーラシアの動きと武士の政治の展開	○武家政権が誕生して、武士の支配が次第に全国に広まり武家社会が発展していったという大きな時代の流れを理解する。 ○モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割など、この時代に東アジアや世界と密接な関わりが見られたことや、それが国内の政治に影響をおよぼしたことを理解する。 ○畿内を中心とした都市や農村に自治的な仕組みが生まれたというこの時代の大きな変化の原因を、農業をはじめとする諸産業の発達などの視点から考えさせる。 ○武士や民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の特色を、代表的な事例を取り上げて捉えさせ、その中で現在に結びつくものに関心を持たせる。

理科の目標

- ・自然に対する関心を高め、観察や実験を、手順をしっかりと確認しながら行い、基本的な器具の操作を習得する。
- ・問題解決に向けて目的をもって観察や実験などを行い科学的に調べる能力や態度を身につける。
- ・身近な自然の事物や現象について理解を深める。
- ・事物や現象について科学的な見方や考え方を身につける。



評価の観点・方法

評価の観点	第 1 分 野	第 2 分 野	評 価 の 方 法
○知識・技能 	物質やエネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・発表 ・観察・実験での活動の様子 ・パフォーマンステスト ・実験レポート
○科学的な思考・判断・表現 	物質やエネルギーに関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験での活動の様子 ・実験レポート ・定期テスト 
○主体的に学習に取り組む態度	物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表 ・観察・実験での活動の様子 ・実験レポート ・ノート

「学力」達成目標に関する学習内容

- ・実験・観察器具の使い方を習得し、自ら適切に操作することができる。
- ・実験や観察の記録から結果をまとめ、自然現象が説明できる。
- ・教科書に出てくる基本的な理科の用語の意味が説明できる。
- ・理科で学習する自然の様々な事象を日常生活と関連づけながら理解できる。



中学校1年生の理科では次のような学習をします。

	学 習 す る こ と	学 習 の ね ら い
一 学 期	<p>○いろいろな生物とその共通点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの生物の観察 ・生物の特徴と分類 ・花のつくりに着目する ・葉や根のつくりに着目する ・マツの仲間の花と種子 ・種子をつくらない植物 ・動物の分類 ・セキツイ動物の特徴 ・無セキツイ動物の特徴 <p>○身のまわりの物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物体と物質 ・似ている物質の見分け方 ・金属の性質 ・質量を手がかりにした物質の見分け方 ・気体の性質 ・気体を発生させる方法や捕集方法 ・水溶液の性質 ・水溶液の濃さ ・溶質を取り出す方法（再結晶） ・物質の状態と温度 ・混合物の分離（蒸留） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルーペの使い方やスケッチの仕方を覚える。 ○生物を分類するためには、分類のための観点を選び、基準を設定することが必要なことを理解する。 ○花、葉、根の基本的なつくりの特徴から分類できることを見いだす。 ○身近な動物の観察記録に基づき、動物がいくつかの仲間に分類できることを見いだす。
二 学 期	<p>○光・音・力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光の反射、屈折 ・凸レンズとのはたらき ・音と振動、音の伝わり方 ・音の大きさと高さの振動との関係 ・力のつり合い ・力の種類、力の表し方 ・ばねののびと力の大きさとの関係 	<ul style="list-style-type: none"> ○密度を求めることができる。 ○ガスバーナーの使い方を覚える ○酸素や二酸化炭素などの気体の性質を調べる実験を行い結果を記録して整理することができる。 ○溶質が均一に分散していることや、溶質を取り出す方法を理解する。 ○物質は融点や沸点を境にして、状態変化することを理解する。
三 学 期	<p>○大地の成り立ちと変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火山の噴火と火山噴出物 ・火山の形とマグマの性質 ・火成岩（火山岩、深成岩）のでき方とつくり ・火成岩をつくる鉱物 ・地震のゆれと伝わり方 ・地震の分布と原因 ・地震による災害 ・地層のでき方 ・地層をつくる岩石（堆積岩） ・示相化石と示準化石 ・地層の観察 ・しゅう曲・断層 	<ul style="list-style-type: none"> ○光の性質を日常生活の現象と関連付けて理解する。 ○凸レンズのはたらきについて理解する。 ○「力」に関する基礎的な性質やその働きを理解し「力」の量的な、見方の基礎を養うとともに、力に関して科学的に考察する能力や見方を養う。 ○火山の形とマグマの性質の関係を理解する。 ○火山岩と深成岩のつくりをその成因と関連付けてとらえる。 ○地震の波の種類とゆれ方について知る。 ○地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえる。 ○地震による災害と防災について考える。 ○地層の重なり方の規則性やその広がりなどを見いだすとともに地層の調べ方を習得する。 ○示相化石、示準化石の種類からその地層が堆積した当時の環境や時代を知る。 ○地層の観察の仕方を知る。

第1学年 「英語」

1 学習の目標

英語や外国の文化に対する理解を深めるとともに、学校・家庭・地域など日常生活の中で、身近な人々と英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目標とする。

- 〔聞くこと〕簡単な英語を聞いて、相手が何を伝えようとしているか理解できるようにする。
- 〔読むこと〕簡単な英語を読んで、書き手が何を伝えようとしているか理解できるようにする。
- 〔話すこと(やりとり)〕簡単な英語を使って、自分の考えなどを話すことができるようにする。
- 〔話すこと(発表)〕簡単な英語を使って、自分の考えなどを発表することができるようにする。
- 〔書くこと〕簡単な英語を使って、自分の考えなどを書くことができるようにする。

2 評価の観点、場面・方法

【観点:知識・技能】

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解すると共に、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけるようにする。

- 場面:英単語の意味や使い方の発表・異文化理解に関する説明や話し合い・教科書の内容理解・音読
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・ノート・提出物・音読テスト・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト

【観点:思考・判断・表現】

コミュニケーションを図る場面、目的、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

- 場面:コミュニケーション活動(自由会話・インタビュー等)・英作文・手紙やメール文を書く活動・自己紹介スピーチ・自己表現・英語での説明、質問、応答・パスポート活動
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・発表の観察・ノート・提出物・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト・教師やALTとの会話

【観点:主体的に学習に取り組む態度】

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

- 場面:コミュニケーション活動(自由会話・インタビュー等)・英語の歌・パスポート活動
- 方法:授業中の発言や言語活動等の観察・発表の観察・ノート・提出物・音読テスト・小テスト・定期テスト・パフォーマンステスト・教師やALTとの会話

3 学習のポイント

- ①間違いを恐れず積極的にコミュニケーション活動に参加しよう。
- ②ALTの先生との授業は、生の英語に触れることができる貴重な機会なので、わからないときは聞き返し、表現できないときは身振り手振りを使って伝えよう。失敗を恐れず積極的に話しかけることをチャレンジしてみよう。
- ③授業中は進んで挙手や発言をし、わからないところはその場で解決できるようにしよう。
- ④繰り返し学習することを意識し、定着を図ろう。予習(意味調べ)・復習(本文を3回以上音読、本文や単語を書く練習、宿題)を習慣化しよう。小テスト・定期テスト・パフォーマンステストの際に学習の仕方を振り返ろう。

⑤先生の発音やCDの音声をよく聞き、英語独特の発音、リズム、イントネーションを真似してみよう。

⑥教科書の音読をしよう。丸暗記するほど読み込むと、発音もよくなり、単語や細かい表現も頭に入るので挑戦しよう。

⑦楽しむ気持ちを大切にしよう。英語の歌、ゲーム、ペアワーク、グループワーク、スピーチなど、色々な言語活動を楽しみながら英語を身につけよう。

4 学習内容と学習のねらい

学期	月	単元	主な学習内容
1	4	○Get Ready	アルファベットの形と発音 辞書の引き方
	5	○Program1(友達をつくろう)	Be動詞(肯定・否定・疑問) whereの疑問文
		○Program2(1-Bの生徒たち)	一般動詞(肯定・否定・疑問) 複数形 whenの疑問文
	6	○Program3(タレントショーを開こう)	can(肯定・否定・疑問) whatの疑問文 単数形と複数形の違い
7	○Program4(Let's Enjoy Japanese Culture)	This is~, That is~(肯定・否定・疑問) 代名詞 Whoの疑問文	
2	9	○Program5(The Junior Safety Patrol)	三人称単数現在形(肯定・否定・疑問)
	10	○Program6(The Way to School)	人称代名詞(him, her) whyの疑問文 becauseの用法
	11	○Program7(Research on Australia)	There is~, There are~の文 howの疑問文
	12	○Program8(The Year-End Events)	現在進行形(肯定・否定・疑問)
3	1	○Program(A Trip to Finland)	一般動詞の過去形(肯定・否定・疑問)
	2	○Program10 (Grandma Baba's Warming Ideas!)	Be動詞の過去形 過去進行形(肯定・否定・疑問)
	3	○Review これまでの復習	英作文・手紙・メール文の書き方

全学年 「技術・家庭科」

1 学習の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

2 評価の観点・方法

技術・家庭科は、「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力」、「生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活や環境などについての基礎的な理解と、それらに係る技能」等の観点で評価します。

①知識・技能

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、また、生活と技術とのかかわりについて理解しているかどうかを評価します。主にレポート、学習プリント、テストなどを評価します。実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術が身に付いたかどうか評価します。主に学習経過における技能の習熟状況、完成した作品の状況などにより多面的に評価します。

②思考・判断・表現

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、課題を解決する力を評価します。主に課題解決策を構想し、製作図などの表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなどのより、多面的に評価します。

③主体的に学習に取り組む態度

よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度などを重視して評価します。主に作業や実習、実習計画立案への積極性、毎時間の学習への取り組み状況、学習プリント・ノートや作品の提出状況、レポートや家庭での実践記録などを評価します。

3 学習のポイント

○学習した内容を実際の生活で活かす場面を設定し、自分の生活が社会と関わっていることや、自分が社会に参画し貢献できる存在であることを認識する。

4 学習内容と学習のねらい

「技術分野」

A 材料と加工の技術

- (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術
- (2) 材料と加工の技術による問題の解決
- (3) 社会の発展と材料と加工の技術

B 生物育成の技術

- (1) 生活や社会を支える生物育成の技術
- (2) 生物育成の技術による問題の解決
- (3) 社会の発達と生物育成の技術

C エネルギー変換の技術

- (1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術
- (2) エネルギー変換の技術による問題の解決
- (3) 社会の発達とエネルギー変換の技術

D 情報の技術

- (1) 生活や社会を支える情報の技術
- (2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決
- (3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決
- (4) 社会の発展と情報の技術

「家庭分野」

A 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族・家庭生活
- (2) 幼児の生活と家族
- (3) 家族・家庭と地域との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

B 衣食住の生活

- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- (3) 日常食の調理と地域の食文化
- (4) 衣服の選択と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 住居の機能と安全な住まい方
- (7) 衣食住の生活についての課題と実践

C 消費生活・環境

- (1) 金銭の管理と購入
- (2) 消費者の権利と責任
- (3) 消費生活・環境についての課題と実践

1年生「美術科」シラバス

教科の目標	表現および鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。		
評価について	<p>【評価の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能 2 思考・判断・表現 3 主体的に学習に取り組む態度 <p>【評価の方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業中の取り組みの様子、発言、表情、対話などから、評価する 2 作品から、発想の過程や制作の手順、思いや意図の変容を評価する 3 制作カードや作品カードの記述から、生徒自らが、授業のねらいや課題を振り返り自己評価などを評価する 	学習の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1 様々な用具や素材（紙・木・石・金属・粘土など）を扱い、つくる楽しさを味わう。 2 造形活動への興味・関心を高め、楽しく美術活動に取り組む。 3 いろいろな作品づくりの中で、個性を生かし、自ら学ぶ姿勢が身に付くように試行錯誤し、学習する。 4 「表現」及び「鑑賞」の中で、形や色彩、材料、光などの性質、それらが感情にもたらす効果などを理解する。造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。

3年間の学習内容

	第1学年	第2学年	第3学年
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 美術について、授業の約束などを学ぶ。 ・「心ひかれる木」 (絵画) ・「燃え上がる黄色は希望の光～ゴッホ～」 (鑑賞) ・「創作文字を描こう」 (デザイン・工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 授業の約束などを確認する。 ・「私の大切なもの」 (絵画) ・「ゲルニカを味わう～ピカソ～」 (鑑賞) ・「ポスター (視覚伝達デザイン)」 (デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 授業の約束などを確認する。 ・「友達 一切り絵」 (絵画)
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「材料を生かして 一割り箸造形」 (彫刻) ・「編んで作る小物入れ」 (紙工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「輝く私の一場面」 (彫刻) ・「カッティングカレンダー」 (デザイン・工芸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「抽象彫刻にチャレンジ」 (彫刻) ・「サクラダファミリア教会～アントニ・ガウディ～」 (鑑賞)
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「お地蔵様を描こう(墨)」 (絵画) ・「墨とパステルのハーモニー」 (絵画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き生きとした動物・昆虫を描こう ースクラッチー」 (絵画) ・「興福寺阿修羅像 祈りの造形～修学旅行に向けて～」 (鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4×4模様のデザイン」 (デザイン・工芸) ・「サラエボの光～平山郁夫～」 (鑑賞)

第1学年 「保健体育」

1 学習の目標			
①進んで運動に親しみ、心身ともにたくましい人になろう。 ②運動の持つ特性にふれ、運動技能を高めて、運動の楽しさや喜びを味わおう。 ③安全に気をつけ体力の向上を図ろう。 ④ルールやマナーを守り、仲間と協力して活動しよう。			
2 評価の観点・方法 <u>保健体育では、次の3観点で評価します。</u>			
①運動や健康に関する「知識・技能」 (運動の意義を理解し、健康・安全に関する知識と必要な技能や体力を高めるための運動の行い方を身につけている。)	○時間やルール、服装等の約束を守る。 ○大きな声を出し、活気あふれる行動ができる。(準備運動から終りの挨拶まで) ○体育5点セットを体育バックに入れ、はちまきを忘れない。		
②運動や保健課題の発見・解決等のための「思考・判断・表現」 (運動の課題の解決を目指して、活動の仕方を工夫している。)	○授業態度(取り組みの様子) ○自分の能力にあつためあてをもつ。 ○練習の仕方を考えたり、実技体育の資料を活用したり、工夫している。		
③主体的に学習、健康の保持増進や回復に取り組む態度等の「主体的に学習に取り組む態度」 (進んで運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを体得しようとしている)	○学習カードや個人カードの記入や提出。 ○実技テストや発表会・記録会 ○定期テスト ※試験は当日のみ。種目によっては後日参考		
3 学習の内容と学習のねらい			
学 期	学 習 内 容		
	1 学年	2 学年	3 学年
一 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト ・体づくり運動 ・体育祭に向けて ・ダンス(ソーラン) ・陸上(短距離・リレー) ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・体育理論 ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト ・体づくり運動 ・体育祭に向けて ・ダンス(ソーラン) ・陸上(短距離・リレー) ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・体育理論 ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・集団行動 ・新体力テスト ・体づくり運動 ・体育祭に向けて ・ダンス(ソーラン) ・陸上(短距離・リレー) ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・体育理論 ・保健
二 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・陸上(ハードル・走幅跳) ・器械運動(マット) ・陸上(長距離走) ・体づくり ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・陸上(ハードル・走幅跳) ・器械運動(跳び箱) ・陸上(長距離走) ・体づくり ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり ・球技(ソフトボール・バレーボール) ・陸上(ハードル・走幅跳) ・器械運動 or 球技(跳び箱・ハンドボール) ・陸上(長距離走) ・体づくり ・保健
三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(サッカー・バスケットボール) ・武道(柔道) ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(サッカー・バスケットボール) ・武道(柔道) ・保健 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(サッカー・バスケットボール) ・保健

道徳教育とは道徳の時間をはじめとして、学校の教育活動全体で、豊かな人間性を育てるものです。

道徳教育の目標

- (1) 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う
- (2) 豊かな心をはぐくむ
- (3) 伝統的な文化を継承し、発展させ、更に個性豊かな文化の創造に努める人間を育成する
- (4) 民主的な社会及び国家の形成発展に努める人間を育成する
- (5) 平和的な国際社会の実現に貢献できる人間を育成する
- (6) 未来を拓く主体性のある日本人を育成する
- (7) 道徳性を養う

具体目標（「規律ある態度」達成目標との関わり）

- ① 心のこもった挨拶、正しい言葉遣い、時間を守ることのできる生徒の育成
- ② 自分に厳しく、他人を思いやる心をもった生徒の育成
- ③ 清掃活動、緑化活動に一生懸命取り組む生徒の育成
- ④ 自分の可能性を信じ、夢や希望を持って将来の生き方について考えることのできる生徒の育成
- ⑤ 地域の一員として地域の活動に積極的に参加できる生徒の育成

道徳の時間の指導計画

月	道徳の時間（主題名）	行事等	月	道徳の時間（主題名）	行事等
4	〈相手の立場に立った支え合い〉 〈場に応じた挨拶〉	・入学式 ・始業式 ・対面式 ・離任式	10	〈心の弱さを乗り越える〉 〈人の善意に感謝する心〉 〈輝かせる命〉 〈権利ときまり〉	・新人体育大会（部活動） ・生徒会役員選挙 ・中間テスト ・合唱コンクール
5	〈命を育む〉 〈公正に考えるとは〉 〈信頼と敬愛に支えられた友情〉 〈人類の発展に貢献する〉	・新体力テスト ・中間テスト ・体育祭	11	〈相手を受け止める〉 〈誠意ある行為の美しさ〉 〈誰にとっても公平な社会〉 〈希望を持ち、前向きに生きる〉	・市内音楽会 ・ふれあい講演会 ・期末テスト
6	〈かけがえのない家族〉 〈自然の美しさに感動する心〉 〈誠実な生き方〉 〈自然との共生〉	・開校記念日 ・生徒総会 ・学校総合体育大会（部活動）	12	〈仲間と共に〉 〈相手のよさを認め合う〉 〈世界の中での日本文化のすばらしさ〉	・人権週間 ・終業式
7	〈心身の調和を求めて〉 〈理想に向かって〉	・期末テスト ・終業式	1	〈自己の向上を図る〉 〈続ける努力〉 〈働く喜びと充実した生き方〉	・始業式 ・スキー林間
8			2	〈公德を大切にできる心〉 〈役割を果たす〉 〈友情を深めるために〉	・学年末テスト
9	〈郷土を愛する〉 〈自らの役割を果たす日本人〉 〈自分の行動に責任を〉 〈望ましい地域社会〉	・始業式 ・避難訓練 ・体験学習会	3	〈尊い命〉 〈新たな可能性を求めて〉	・三年生を送る会 ・卒業式 ・修了式

1. 目標

<特別活動の目標>

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

<学級活動>

学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す。

<生徒会活動>

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す。

<学校行事>

全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、資質・能力を育成することを目指す。

2. 特別活動の指導計画

月	活 動	行事等	月	活 動	行事等
4	◎自己紹介 ◎学級の係、委員会決め ◎学級目標、個人目標決め ◎掲示物作成	入学式 始業式 対面式 離任式	10	◎合唱コンクールに向けて ②修学旅行に向けて ①スキー林間に向けて ◎合唱コンクールの振り返り	新人体育大会 生徒会役員選挙 合唱コンクール 中間試験
5	①～③体育祭 ◎体育祭選手決め ◎学級旗作成 ◎定期試験の学習計画	新体力テスト 中間テスト 体育祭	11	②修学旅行に向けて ①スキー林間に向けて ◎定期試験の学習計画	市内音楽会 ふれあい講演会 期末試験
6	◎学校総合班大会に向けて ①③校外学習に向けて ②社会体験チャレンジに向けて	壮行会 開校記念日 生徒総会 学校総合体育大会	12	②修学旅行に向けて ①スキー林間に向けて ◎2学期を振り返って	終業式
7	①③校外学習の振り返り (②社会体験チャレンジ) ◎定期試験の学習計画 ◎1学期を振り返って	期末テスト 終業式	1	◎新年の抱負、個人目標決め ①②③送会に向けて ②修学旅行に向けて ①スキー林間に向けて	始業式 修学旅行
8	夏休み		2	③県公立入試に向けて ①②③送会に向けて ◎定期試験の学習計画 ①②進級に向けて	スキー林間 学年末試験 県立高校入試
9	②チャレンジ報告書作成 ◎個人目標決め ◎体験学習 お礼状書き ◎合唱コンクールに向けて	始業式 体験学習 (資源回収)	3	③卒業式に向けて ◎1年間を振り返って	三年生を送る会 卒業式 修了式

令和8年度 総合的な学習の時間 シラバス

1. 目標

自分の生活と地域の人、もの、ことに関わる事柄を探究することを通して、協動的によりよく課題解決に取り組み、自己の生き方を考えよう。

2. 評価の観点・方法

○評価の観点

よりよく問題を解決する資質や能力・学び方やものの考え方

主体的、創造的、協動的に取り組む態度・自己の生き方に関する考え方や態度

○評価の方法

話合いや発表の様子など活動状況の観察・ワークシート、レポート、制作物

自己評価や振り返りシートの内容 等

3. 学習のポイント

○南中学校の総合的な学習の時間と CT（チャレンジタイム）では、探究のプロセス『課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現』を、学校行事と関係させながら繰り返して行います。仲間と協力しながら積極的に活動に取り組むことを心がけてください。まわりの人と協力して課題解決をすることは、生きる上でとても大切なことです。

○自分が考えたことや発見したことなどを、自己評価や振り返りシートで記録に残すことを大切にしてください。自分の生き方を考える上で役立ちます。

4 学習内容とねらい

1年：職業と自己の生き方（1、2学期）

仲間との絆（主に2学期・合唱コンクールと関連）

鴻巣市と他の地域の魅力発見（2、3学期・スキー林間学校と関連）

2年：職業と自己の生き方（1、2学期・社会体験チャレンジと関連）

仲間との絆（主に2学期・合唱コンクールと関連）

日本の伝統文化の魅力発見（主に2、3学期・修学旅行と関連）

3年：職業と自己の生き方（主に1、2学期・進路選択と関連）

仲間との絆（主に2、3学期・合唱コンクールや卒業プロジェクトと関連）

地域社会のためにできること（3学期）